桑山哲郎,「画像からくり」ロ絵連載第27回「上下絵・さかさ絵の世界」, 日本写真学会誌, 第77第4号 pp. 289-290 (2014年 11月)
©一般社団法人日本写真学会

Fig. 1 上下反転した風景(撮影:著者)

Fig. 2 上下正しい風景(撮影:著者)

Fig. 3 逆さ絵本「まさかさかさま 虹の巻」の表紙

Fig. 4 さかさまマンガ「少女ラブキンズと マファルー老人の冒険」の表紙

Fig. 5 「江戸の遊び絵」の表紙

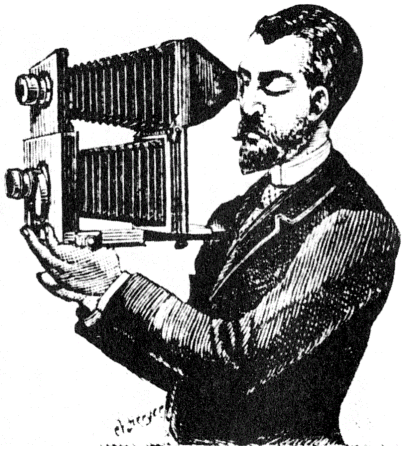

Fig. 6 二眼カメラの使用状態

学会誌に掲載した口絵の 画像をカラー化し web掲載用に調整しています

口絵解説

「画像からくり」第27回　上下絵・さかさ絵の世界

27. The World of Upside Down Pictures

桑　山　哲　郎

写真は「だまし絵」にたとえられる．そして，まるで実物がそこに置かれているように描かれた細密画の存在が，写真の技術を研究する動機付けの一つになったという説もある．一方，この論議とは無関係に「上下絵」（さかさ絵，あべこべ絵とも呼ばれる）は，はるか昔から現代に至るまで，だまし絵の中で大きな勢力を保っている．今回はこれに関連する話題を取り上げる．

ある日，自宅の近所を散歩中「これは面白い写真ができる」と思い，シャッターを押した結果をFig. 1に示す．目の前の路地を見て「この風景は上下逆にすると絵になる」と感じた．本来は立看板として「止まれ」と掲示されているものが，上下逆転して地面に置かれている様に見えたのである．

比較のため，上下左右を反転させる前の写真をFig. 2に示す．写真撮影の時点では，我ながら素晴らしいアイデアだと思ったのだが，しばらく経ってから見直すとそれ程でもない．上下絵の効果は白黒写真の方が趣があるので，掲載の写真を2枚比較してお楽しみいただきたい．

私の部屋には，上下絵の絵本が数多く置かれている．その中から一冊だけを代表として取り上げるのは大変困難だが，一番の人気作家，伊藤文人氏の最新作「まさかさかさま 虹の巻」[1]をFig. 3で紹介する．絵を見てから，学会誌を180度回転して再び見ると，元の絵とは全く違う世界が広がっていることに驚かれるだろう．伊藤氏の絵本では，上下反転させる前後で別なストーリー展開が体験できることから，人気が高い．多くの絵本がシリーズで刊行されているので，ぜひ書店で手に取ってみていただきたい．

上下絵の歴史上，ぜひ取り上げなければならないのが，Fig. 4の「さかさまマンガ」[2]である．新聞の日曜版の6コマしか無いスペースで，12コマのストーリー展開を実現するという大変困難と思われる偉業が，ニューヨークで刊行されていた新聞紙面上で行われた．最初6コマを読み進んだところで，紙面を180度回転すると，7コマ目から12コマ目までの話を読み進めることができるという趣向である．連載は1902年から1903年にかけて18か月，実に65回にも及んでいる．お話の一部はWeb上で公開されているので，“Gustave Verbeek”という作者名あるいは“The Upside Downs of Little Lady Lovekins and Old Man Muffaroo”で検索していただき，フルカラーのマンガを楽しんでいただくことをお勧めする．

ヨーロッパや中国では古くから上下絵は描かれてきているが，日本では特に江戸時代から明治にかけ多様な作品が作られている．Fig. 5は，江戸時代の遊び絵を多数収めた豪華本「江戸の遊び絵」[3]であるが，表紙に大きく上下絵の顔が描かれている．この本もぜひ上下反転させてお楽しみいただきたい．

私自身は，大判カメラが好きなことと，上下絵が好きなことには明らかな相関があると信じている．写真に興味を持ち始めたころ，6×9判のカメラにピントグラスを付け，ピント合わせと構図決定の練習をした．上下左右が反転すると，目の前の風景との対応はつきにくくはなるが，別世界が開けるような感覚も持ったものである．なお，ファインダーの像が上下左右反転しているカメラは，意外にもたびたび商品化されている．Fig. 6は「二眼カメラ」の初期の代表的な機種である．1862年の発案とされているが，1872年にイギリスのマリオン社から「レポーター・カメラ」という名前で発売されている．ガラス乾板を使用するカメラで，ファインダー用には撮影レンズと同じ焦点距離のレンズを用い，ピント調節と構図決定をピントグラス上の像を用いて行う．ファインダーの光路に45度に折り曲げミラーを配置した，二眼レフレックスカメラに先立ってこの二眼カメラは発売されたが，ずっと時代を下っても，二眼カメラはごく少数であるが商品として発売されている．カメラの歴史上は，取り上げられることが少ない二眼カメラであるが，たびたび製品として登場していることを最後に指摘しておく．

引　用　文　献

1) 伊藤文人(絵と文)，“さかさ絵本「まさかさかさま 虹の巻」”，サンマーク出版，2012.
2) グスターブ・ファビーク，坂根厳夫(訳)，“さかさまマンガ「少女ラブキンズとマファルー老人の冒険」”，TBS出版会，1987.
3) 稲垣進一(編著)，福田繁雄(監修)，“江戸の遊び絵”，東京書籍，1987.